

**【ご質問①】**

日本でごみの問題が大きくなるのはなぜですか？

**【回答】**

日本でもこれまで、東京での「ごみ戦争宣言」やダイオキシン問題など、ごみに関する様々な種類の社会問題が顕在化してきました。国や地方自治体は、それを解決し、生活環境を守るためのさまざまな法律や制度を定めてきた歴史があります。日本では、ごみに関する問題は社会の重要な課題だと認識されており、その対応のための体制が整えられていますが、今後は、アジアの国々でもそうした体制が整備されていくと考えられます。

**【ご質問②】**

発生するメタンを利用することはできないのですか？

**【回答】**

メタンガスをエネルギーとして利用するプロジェクトは、期間限定であれば実現可能ですが、経済性を確保するためには、一定の量・質のメタンガスが発生し続ける必要があります。持続可能な方法ではないと考えています。エネルギー回収に関する経済的価値がなくなった埋立地から発生する汚水の環境影響は極めて深刻であり、生活環境全体を考えたときに、メタンのエネルギー利用で得られる便益よりも損失の方がはるかに大きいと試算しています。

**【ご質問③】**

水路でごみをボートで収集しているということですが、頻度はどの程度なのでしょう？また、この問題は収集がしっかりできていないことが原因なのでしょう？

**【回答】**

ボートによる回収の頻度はおおむね週 1-2 回ですが、増水時はボートが出せないなどの制約があります。原因はいろいろありますが、行政が居住者情報・建築物情報を把握できていない、当該地区に陸路でのアクセスができないなど、廃棄物行政側だけでは立ち入れない問題も多くあるようです。

**【ご質問④】**

固形燃料で燃焼したとき、発生するガスの安全性や環境への問題はないのでしょうか？

**【回答】**

アジアの国々では大気の水質に関しては大きな関心があり、産業炉からの大気排出に関しては厳しい規制があります。産業炉に投入される固形燃料についても、大気排出に関する基準を満たせるような受け入れ基準が設定されています。

**【ご質問⑤】**

準好気性埋め立てにつかう管の素材はなんですか。管の維持管理も必要なのでしょうか。

**【回答】**

管の素材は、塩化ビニルが一般的です。維持管理については、目詰まり等が生じると集水や集ガス効率が低下するため、その管だけでなく、保護材を含めた管周辺の構造全体について機能が維持できていることを確認することが望ましいです。

**【ご質問⑥】**

バングラデシュでは、レジ袋を禁止したと聞きました。その効果は上がっているのでしょうか。

**【回答】**

バングラデシュでの実効性についてはまだ報告はありませんが、いわゆる石油化学由来のレジ袋的なものを禁止している各国において一般的に共通していることとして、その対策のみでプラスチックごみの発生量や環境放出量を劇的に削減する効果というよりは、国民の方への問題意識の喚起という側面での効果が大きいと考えられます。脱炭素・脱物質という社会の潮流を形成していくことで、目的に近づいていくと考えています。

**【ご質問⑦】**

準好気性埋め立ての縦菅は、どれくらいの間隔で立てるのですか。

**【回答】**

日本では、おおむね 45 m 間隔（2000 平米に 1 本）より細かく設置することとされています。アジアで建設する際は、これを参考として集排水管の間隔や設置費用など現地の状況にあわせて調整することが望ましいと考えます。